
日本科学者会議 京都支部ニュース

8月号 No.438
2020年8月12日発行

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448 預金種目：普通預金 口座番号：0280018

・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・

- 『日本の科学者』2020年6月号の宇野論文に接して（宗川吉汪）・・・・・・・・・・2
- 『日本の科学者』読書会7月例会（8/7）の報告：7月号特集；原発災害から地域の未来へ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 寄稿：少人数教育の勧めについて（富田道男）・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ◆ 8～9月の支部関連行事の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - ・ 原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会（8/28）検証委員会（ZOOM）
 - ・ 『日本の科学者』読書会9月例会（9/4）（ZOOM）
 - 7月号特集：初沢論文（鈴木）
 - 8月号特集：菅井論文（小林）、赤上論文（清水）
 - 8月号レビュー：広渡論文（宗川）
 - ・ JSA第51回定期大会（第1日9/13；第2日9/27）（ZOOM）
- ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

＜今年度会費の早期納入願い＞

今年度会費の納入率は7月末現在、一般会員79%，特別会費会員と家族割会員100%ですが、若手会員と若手特別会員はそれぞれ29%、27%と低迷しています。引き続き今年度会費（一般会員：14,400円、若手会員：6,000円、若手特別会員：4,200円）の早期納入にご協力くださるようお願い申し上げます。今月も振込用紙を同封していませんので、4月・5月に同封した振込用紙で納入願います。なお、ご自分の納入状況を確認したい方は支部財政担当幹事・鈴木博之宛（Email: kbbhh761@ybb.ne.jp）にメールでお尋ねください。

『日本の科学者』2020年6月号の特集は「性と人権」であった。その筆頭論文を宇野賀津子さんが書いていた。これにはいささか驚かされた。

宇野さんが女性問題で活躍していることは承知している。2011年10月、第13回女性研究者技術者全国シンポが京都で開催されたが、私は京都支部の責任者として、実行委員長坂東昌子さんと一緒に開催準備のお手伝いをした。宇野さんには記念講演をお願いした。長谷川千春さんが『日本の科学者』2012年1月号の「科学者つうしん」でシンポの報告をしている。今回の特集論文の内容は9年前の講演とほぼ同じで新しいことは何もなかった。

3・11福島原発事故以降、坂東さんと宇野さんは放射線被ばく問題を理由にJSAを離れた。今回の宇野論文の執筆者紹介に『低線量放射線を超えて 福島・日本再生への提案』（小学館新書、2013）がある。その本の中で宇野さんの意見が開陳されている。以下いくつか要約して引用する。

坂東さんと一緒にNPO法人「あいんしゅたいん」から低線量被曝について発信してきた（p.10）／矢ヶ崎克馬・守田敏也著『内部被曝』（岩波ブックレット）の知識レベルで低線量放射線が危険だといっているのか？知識はせいぜいビキニの頃のままではないか、と思った（p.30）／100ミリシーベルト以下でも「線量と発がんの増加は直線関係にある」とするLNT仮説は誤解を生んだ（p.70）／高田純『核爆発災害 そのとき何が起こるのか』（中公新書）を読んで、第五福竜丸の久保山の死因は被ばくではなくウイルス性

肝炎というのがわかった（p.73）／内部被ばくが外部被ばくより危険という論拠はない（p.118）／山下俊一氏の「100ミリシーベルト以下は全く心配要りません」「ニコニコ笑っている人に放射線は来ません」は間違っていない（p.152）／「母親だったら反原発は当然」というようなべき論では今の複雑な問題は克服できない（p.178）／一時的感情論で原発を止めても危険が去るわけではない（p.199）／低線量の影響を過剰に心配するあまり、免疫力が低下する方がもっとがんリスクを上げる（p.214）

それにしても宇野さんは、高田純が核武装論者として有名な田母神俊雄と行動を共にしている“物理右翼”であることを知らないのだろうか。（以下のツイッターを参照のこと twitter.com/gatapi21）

8月1日、ZOOMで近畿地区サポーター会議が開かれ、11人が参加した。席上、私は宇野さんに執筆依頼したことに疑問を呈した。JSAの運動に必ずしも好意を持たず、まして会員でもない人にわざわざ『日本の科学者』の貴重な誌面を提供することはないではないか。

それに対して長野編集委員長から以下のような見解が示された。

これについては、編集委員会に同じ趣旨の質問が他地区のサポーターからあり、7月の編集委員会で協議を行った。本特集に関わっては、それらの言説は特集論文の主題とは関わりがなく、特集論文そのものは一般読者向けの分かりやすい解説となっているので、排除する理由にならない。

編集委員会は、論文主題と関係がなければ執筆者がどんな考えを持っていようと構わない、というのである。JSA の会員は、JSA の方針に賛同して入会し、『日本の科学者』に投稿する権利をもつ。非会員なら JSA の方針に賛同しなくとも『日本の科学者』に書かせていいのか。9 条改憲賛成、核兵器容認、軍学共同賛成、原発賛成、辺野古基地賛成を主張する人でも主題と関係がなければいいのか。

原発事故で福島から全国各地に避難した人の多くは母子避難である。子どもの命を守ること、放射能の恐怖から逃れること、そのことに必死だった、と皆が語っている。(原発賠償京都訴訟原告団編『私たちの決断—あの日を境に』(耕文社、2017)。吉田千亜は『ルポ母子避難—消されゆく原発事故被害者』(岩波新書、2016)で、原発事故で避難した母子の生活がいかに困窮しているかをルポした。子どもを守りたい一心で避難した母親たちに政治は何も手を差し伸べない、その実態を告発した。

母子避難は、まさに喫緊の女性問題ではないだろうか。父親は生活のために福島を離れることができない。この男女の圧倒的な非対称性こそ今日の重要課題ではないだろうか。

もっとも宇野さんにとっては原発事故からの避難はリテラシーの欠如の問題のようだ。『低線量放射線を超えて』の本の「おわりに」で次のように書いた。

(福島での)講演後「避難先から福島に戻って来て福島産の野菜果物が食べられなかった、そしてそんな自分が許せなかった、でもこれからは食べられそう」と言ってくれる人もおられ、うれしく思いました。

核兵器反対、9 条改憲反対、軍学共同反対などは JSA 会員にとっては常識の範疇で、いまさら侃侃諤諤、賛否を議論することではない。一方、こと原発に関しては今だに JSA 内部に意見の不一致がある。さすがに原発再稼働容認は影を潜めたが、低線量被ばくの危険や小児甲状腺がんの要因について必ずしも意見が一致していない。しかし、低線量被ばくに危険はない、小児甲状腺がんは事故とは無関係、と強固に主張する人はいないようだ。

やはり、低線量被ばくはへっちゃらだ、と声高に主張する、しかも非会員に、『日本の科学者』の紙面を提供すべきでなかった、と私は思います。これは編集委員会の見識の間われる問題ではないでしょうか。

『日本の科学者』読書会 7 月例会 (8/7) の報告

7 月号特集：原発災害から地域の未来へ

標記例会が 8 月 7 日 (金) 15 時半より Zoom を使って開催された。参加者 5 名。「7 月号特集」欄より 2 篇の論文、「論文」欄より 1 篇の論文が取り上げられた。なお、Zoom の操作に不慣れなため、予定されたもうひとつの論文の報告は時間切れとなり、次回に回された。

矢崎とも子「放射線の人体への影響と宮城の現状」（報告者：宗川吉汪）

1. 宮城の現状

汚染状況の報告（県南、仙台市、県北が汚染された）

有識者会議で健診不要判断（報告書 2012.2）

低線量被ばくでは人体への影響は明らかではない、との理由。おおまかな積算線量の推計や被ばく後 9 ヶ月以上も経つホールボディカウンター検査をもとに議論。

事故後 1 年以内に健康影響なしとするのはおかしい。

2. 放射線の基本：防護原則／ICRP, ECRP／低線量被ばく／ドイツと日本

（報告者のコメント：いずれも教科書的説明であらずもがなの記述）

3. 甲状腺検査：

宮城県の検査（18 歳以下 2323 人、患者 4 人）／宮城民医連などの検査（3600 人、患者なし）

（福島県民健康調査の内容紹介であらずもがなの記述）

福島の結果の紹介：疑い 273、手術 186、多いか少ないか議論が分かれる。1～2 巡目に A 判定からがんが見つかったのは事実。科学は事実を認識すること。

（報告者のコメント：著者は自ら、福島の結果を解析すべきだ。）

青水 司「科学技術の転倒性：放射線被ばく労働者」（報告者：宗川吉汪）

以下、著者の主張

- ・原発の致命的欠陥は、有害で無害化できない放射性廃棄物の生成
- ・「生産力」の発達で生活は決して豊かにならない

ない

・原子力技術の欠陥を被ばく労働者に転嫁→現代資本主義における科学技術の転倒性

・原発容認・今の原発に反対する科学者は「未完技術」と主張

・高木仁三郎は、原発など巨大科学技術の矛盾を指摘

・藤井陽一郎は、科学技術の進歩で克服可能、原始的生活への復帰は反科学だ、と主張

・市民科学者の社会的役割は、科学技術、政治経済、人間の 3 つの論理を人間の論理で統一

（報告者のコメント：著者の主張に賛同）

水戸部秀利「原発から再生可能エネルギーへの転換の実践と未来」（報告者：菅原建二）

著者は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と引き続いた福島第一原発事故に遭遇した。

当時 63 歳、臨床医として約 40 年、あと 2 年で定年をむかえる予定であった。しかし、1996 年から 20 年余、仙台市の病院で被爆者検診・診療を担当して知った、広島・長崎の被爆者の悲劇と、原発事故で福島の故郷を追われた人々の悲劇が重なり、以降、脱原発の市民運動に参加するようになった。

福島第一原発の事故を契機に、地震と火山の島国日本に、54 基もの原発が存在する現実を突き付けられた多くの国民は原発からの脱却を求めたが、政財界は再稼働へ向かった。

脱却を求める声は、2012 年 3 月の首相官邸前の脱原発デモとなり、全国に波及した。宮城でも同年 7 月から脱原発みやぎ金曜デモとして始まった。著者も直ちに参加した。デモ参加者は多彩な人びとからなり新たなネットワークが形成された。

著者は、2014 年 8 月に日本環境学会元会長の和田武氏の講演「原発に頼らない再生可能エネルギー中心の社会に」を聞き、その論旨に引き込まれ、同氏の著書『市民・地域共同発電所の作り方』を購読し、具体化を検討した。著者は、脱原発みやぎ金曜デモで知り合った仲間を中心に 2015 年 4 月に NPO 法人「きらきら発電・市民共同発電所」を設立した。数カ月で、会員 55 名、基金・寄付金約 3000 万円を集めた。

発電所は 5 年間で 5 号機まで建設できた。いずれも 50kW 以下の小規模低圧発電所で、場所は津波被災地、保育園の屋根、病院の駐車場であった。総発電量は年間約 33 万 kWh、年間売電収入は約 1000 万円の事業規模に達した。現在、固定価格買い取り制度の契約単価の低下と、売電収入が 1000 万円を超えると消費税が発生することから、設立趣旨に沿って、利益の社会還元・地域循環などを考え、総発電量をおさえつつ新たな発電事業の開拓を検討している。例えば、太陽光発電設備の保育所への譲渡、高齢者福祉事業、次世代を担う若者の再エネ研究事業への助成である。

著者は、また、脱炭素の活動を支援している。関西電力の子会社である仙台パワーステーションが、被災地である仙台港に石炭火力発電所を建設し、2017 年 10 月から稼働を強行した。「電力は首都圏へ、利益は関西へ、よごれた煤煙は仙台へ」との理不尽な構図に地域住民の怒りが募っていった。2017 年 9 月に、124 名の住民が原告となり、仙台パワーステーションの稼働差し止めを仙台地裁に提訴した。著者は副団長として協力した。2 年半の法廷での論争があり 2020 年 3 月 31 日に結審し、判決待ちである。仙台港での同様の計画から四国電力は撤退を表明した。神戸や横須賀でも石炭火力の差し止め訴訟が続いている。

著者らの試みは脱原発・脱炭素、再エネへの挑戦としての市民共同発電である。日本の年間電力消費 1 兆～8000 億 kWh からみれば、30 数万 kWh は微々たるものである。しかし、それは市民の意思表示でありロマンでもある。21 世紀あるべき流れに沿い、その流れを推し進めるものと自負している、と著者は結んでいる。

寄稿：少人数教育の勧めについて

富田道男

コロナ禍のせいで多くの学校の授業が被害を受けて、中でも小学校では、授業を午前と午後の組に分け、半数ずつ登校して授業を受けさせる「分散授業」という苦肉の策を講じている。しかし他方では、この生徒半分¹⁾の 20 人以下のクラスでは、生徒と先生の交流が密になり、生徒・保護者と先生の少人数クラスの教育効果に対する認識が劇的に変化してきたと思われる。

この状況を踏まえて、「教育学」研究者ではなく、前川喜平氏（元文科省事務次官）など教育研究者有志 12 人を呼びかけ人とする内閣総理大臣と文部科学大臣に対する「少人数学級を求める署名」活動が全国的に展開²⁾されている。

署名の項目は

1. 安心・安全な少人数学級をすみやかに実施してください。

2. 授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください。
の2項目で、署名は8月末までに郵送³⁾してほしいとの要望です。

クラスの人数が20人になり、「先生は少しゆったりして、子どもは授業がいつもよりわかる気がした。」との感想が寄せられているようです。「授業がいつもよりわかる気がした。」という言葉の意味は、生徒一人一人に先生が話しをする時間がいつもより多く取れたということに他なりません。理屈から言っても、小学校の20人学級では、45分間の授業時間⁴⁾中に先生が生徒一人に1分の時間を割いたとしても、全員で20分です。先生の持時間は残りの25分ありますから、先生は、生徒一人一人にわかりやすく教えることができるのではないのでしょうか。この意味で20人以下の学級は、生徒一人に平均1分の先生との会話時間を保証する仕組みといえるでしょう。授業ごとに個々の生徒が先生と会話のできる環境では、生徒にとって学校は楽しいところとなり、授業についていけない落ちこぼれ生徒や学校へ行きたくない不登校生徒を生じさせることはなく、ましてや「いじめ」など起こることもないと思われます。小学校では是非20人以下学級を実現させたいものです。

学校における教育は、とりわけ義務教育においては生徒同士で競争させるのではなく、生徒それぞれの個性豊かな人格形成が図れるものであって欲しいと思います。

また、学校の教育課程に取り入れられた「体育」や学校行事の「運動会」などは、かつての教育勅語にあった「天壤無窮の皇運を扶翼」する「丈夫な体の兵隊」を育成する制度の残滓ではないのでしょうか。学校教育には無用のものかと思います。（富田道男）

参考資料

- 1) 小学校設置基準第4条「一学級の児童数は、法令に特別の定めがある場合を除き、四十人以下とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りではない。」により学級の児童数は、通常40人以下と決められている。
- 2) ネット署名は、<http://chng.it/jvf7dQMj> にアクセスしてできます。
- 3) 郵送先などは shoninzugakkyu@gmail.com に問い合わせてくださいとあります。
- 4) 学校教育法施行規則第51条により、小学校の授業時数の1単位は45分とされている。

8～9月の支部関連行事の案内

1. 第4回支部幹事会 (ZOOM)

日時：8月20日（木）18：00～20：00

2. JSA近畿地区会議 (ZOOM)

日時：8月21日（金）13：00～16：00

3. 原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会 検証委員会 (ZOOM)

日時：8月28日（金）19：00～

(参加を希望される方は宗川<sokawa@snr.kit.ac.jp>までご連絡ください。)

4. 第4回ワーキング会議 (ZOOM)

日時：9月4日(金) 13:30～15:30

5. 京都支部9月読書会 (ZOOM)

日時：9月4日(金) 15:30～17:30

(参加を希望される方は宗川<sokawa@snr.kit.ac.jp>までご連絡ください。)

JJS7月号原発災害特集：初沢論文(鈴木)

JJS8月号足尾銅山特集：菅井論文(小林)

JJS8月号足尾銅山特集：赤上論文(清水)

JJS8月号：広渡論文(宗川)

6. 支部ニュース9月号発行

日時：9月11日(金) 13:30～

場所：京都支部事務所

7. JSA第51回定期大会 (ZOOM)

第1日 9月13日(日) 10:00～16:00

第2日 9月27日(日) 10:00～16:00

◆ ◆ ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより ◆ ◆ ◆

第3回幹事会(6月25日)、第3回ワーキング会議(8月7日)はいずれもZOOMで行いました。

1. 会員の現況(8月7日現在)

一般会員 202, 特別会費会員 3, 家族割り特別会費会員 3, 若手会員 7,
若手特別会費会員 11 (会員合計 226), 読者 4

2. 会費納入状況(7月28日現在)

2020年度納入者：一般 161/203, 特別 2/2, 家族 3/3, 若手 2/7, 若手特別 3/11

2019年度未納者：一般 5名, 若手 2名, 若特 3名

18年度未納者：一般 3名, 若特 3名

3. 会計報告：7月分(会費は7/28まで)

2020年度累計

収入累計 1,138,761 円

支出累計 1,013,299 円

収支累計 125,462 円

前年度繰越金 1,269,795 円

7月末残高 1,395,257 円

2020年度7月決算

7月收入合計 75,575 円

7月支出合計 219,948 円

7月分収支 -144,373 円

前月繰越金 1,539,630 円

7月末残高 1,395,257 円

4. JSA 第 51 回定期大会 (ZOOM)

第 1 日 9 月 13 日 (日) 10 : 00~16:00

第 2 日 9 月 27 日 (日) 10 : 00~16:00

京都支部の代議員は、左近会員と宗川会員です。また、支部幹事会から、憲法、軍学、原発、コロナ、大学授業料等の問題に関する特別決議を出す予定です。

5. 23 総学について

23 総学は東京支部の主催で、12 月 4 日~6 日、ZOOM 開催することになりました。特別報告・シンポでは、ジェンダー平等、気候変動問題、コロナ危機などが取り上げられます。

京都支部担当の分科会

細川 孝：コロナ禍における学生の学び—ポストコロナを展望して—

宗川吉汪：コロナパンデミックと日本社会

6. 京都支部 23 総学プレシンポの開催

京都支部担当の 23 総学分科会のプレシンポを開催します。

7. 7 月~8 月の支部関連行事 (支部ニュース 7 月号発行~8 月号発行)

7 月 13 日 (月) 支部ニュース 7 月号編集発行, 「日本の科学者」8 月号発送

7 月 16 日 (木) 第 3 回幹事会 (ZOOM)

7 月 31 日 (金) 原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会・検証委員会
(ZOOM)

8 月 1 日 (土) 第 2 回近畿地区サポーター会議 (ZOOM)

8 月 2 日 (日) 原水爆禁止 2020 年世界大会科学者集会 in 福井 (ZOOM)

8 月 7 日 (金) 第 3 回ワーキング会議 (ZOOM)

8 月 7 日 (金) 8 月読書会 (ZOOM)

8 月 12 日 (水) 支部ニュース 8 月号発行, 「日本の科学者」9 月号発送

(文責：宗川吉汪)